

**製品名: MYH14 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14292**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	228kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MYH14
別名	MYH14; KIAA2034; FP17425; Myosin-14; Myosin heavy chain 14; Myosin heavy chain; non-muscle IIc; Non-muscle myosin heavy chain IIc; NMHC II-C
遺伝子 ID	79784.0
SwissProt ID	Q7Z406
免疫原	抗血清はヒト MYH14 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1051-1100

**背景**

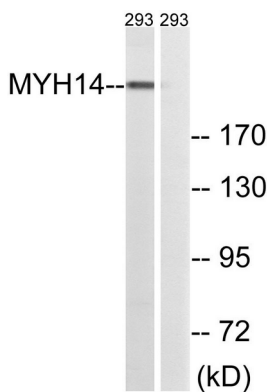
この遺伝子はミオシンスーパーファミリーのメンバーをコードします。このタンパク質は従来型の非筋性ミオシンであり、非従来型

ミオシン 14 (MYO14) と混同しないでください。ミオシンはアクチン依存性モータータンパク質であり、細胞分裂、細胞運動、細胞極性の調節など、多様な機能を有しています。この遺伝子の変異は、常染色体優性難聴の一形態を引き起こします。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2011 年 12 月]、疾患: MYH14 の欠陥は、常染色体優性遺伝性 4 型感音難聴 (DFNA4) の原因です[MIM:600652]。DFNA4 は感音難聴の一形態です。感音性難聴は、内耳の神経受容体、脳への神経経路、または音の情報を受け取る脳の領域の損傷によって起こります。ドメイン: 棒状の尾部配列は高度に反復性があり、4 つのヘプタペプチドからなる 28 残基の反復パターンの周期を示し、 $\alpha$ ヘリックスコイルドコイルの特徴を示します。機能: 細胞分裂、細胞の形状、および分泌やキャッピングなどの特殊な機能に役割を果たしていると思われる細胞ミオシンです。配列注意: 翻訳は N 末端まで延長されています。類似性: 1 つの IQ ドメインを含みます。類似性: 1 つのミオシン頭部様ドメインを含みます。サブユニット: ミオシンは、2 つの重鎖サブユニット (MHC)、2 つのアルカリ軽鎖サブユニット (MLC)、および 2 つの調節性軽鎖サブユニット (MLC-2) からなる 6 量体タンパク質です。組織特異性: 小さな組織で高レベルの発現が見られます。腸管、結腸、骨格筋に発現する。大動脈、子宮、膀胱など、主に平滑筋で構成される臓器では発現が低い。胸腺、脾臓、胎盤、リンパ球では検出されない。

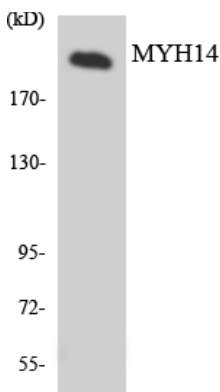
## 研究分野

タイトジャンクション;アクチンと細胞骨格を調節する;ウイルス性心筋炎;

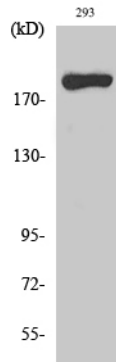
## 画像データ



MYH14 抗体を用いた 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



MYH14 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 1000 に希釈した MYH14 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析